

お茶の水女子大学を退官するにあたって

千 歳 壽 一

「やさしいひとらよ たずねるな なにを おまえはして来たのかと」

これは、詩人で絵も書いた建築家立原道造の詩「ふるさとの夜に寄す」の一節です。

20代半ばで、結核のため世を去った立原道造は、その若さでこういう言葉を述べているのです。これとは多少意味が違いますが、定年退官しようという私に、これまでなにをして来たのかと訊ねられると、忸じたるものがあります。この8年間は、あまりにも速く短い8年間でした。しようと思った事の何分の1もできない間に過ぎてしまいました。

お茶の水女子大学へ来る前、東京都庁に約30年いました。大学で地理を学び、そのつまらなさに、といっても講義が猫に小判だったのかも知れませんが、とても学校に残る気がせず、実務に付く道を選んだのでした。

都庁では、都市計画の様々な部門で勤務しました。東京、いや日本の都市計画の発展の時期に当たっていたため、新しい分野への挑戦に継ぐ日々でした。それぞれの場面で、前例がなく経験者もいません。工夫と社会実験の連続でした。なかには地理学と関連がありそうな、地理学の応用問題といえるような仕事がいくつもありました。その概要だけでも「地理学と都市計画」というテーマで1時間や2時間、充分話す中身がありそうです。

私が係わった課題のうち地理学に関連するものを都市計画の流れの中で位置づけて話すとかなり長くなるので、主なものを箇条書き的に連ねて述べるに止めますが、おおよそ次のようになります。このうちいくつかは、本邦最初の試みです。

- ・三多摩地域都市計画区域別都市計画概要作成・地誌作成法
- ・三多摩地域市町村別人口予測・地域統計学（予測）
- ・都市計画用縮尺3000分の1地形図作成・地図学
- ・東京都市群OD交通量調査・コンピュータ利用の交通分析
- ・空中写真による路線測量・空中写真測量学
- ・都市再開発の事業効果分析・地域形成メカニズム研究
- ・ポイントサンプリング土地利用調査・地域統計学（サンプリング）
- ・都心機能分散のための事務所調査・都心論
- ・マイタウン東京の快適度調査・地域指標作成法
- ・都市計画情報システム開発調査・地理情報システム
- ・東京一極集中問題調査・都市化論、土地利用論

ところで、都市計画は基本的に権力行政の性格を持っています。言葉の響きが良くありませんが、権力のない行政は十全に機能することが困難です。

それゆえ、正しい権力の行使が求められます。私は、そのためには、科学的な根拠に立つ合理的な行政施策が基本であると考えます。その前に、公正無私な立場から、住民のために都市計画を行うという精神が重要であることは、いうまでもありません。わが国の都市計画の最大の功労者といわれる石川栄耀先生は、都庁の建設局長から早稲田大学の土木の教授に転進され、都市計画学を担当されたのですが、「社会を愛する心、それを都市計画という」と書いておられます。計画において、社会を愛する心が一番大切ということを論しておられたのでしょう。

その上で、慎重かつ十分な調査・分析・予測を行い、最小の損失で公平な負担により、最大の効果を生み出すような計画を立案することが必要です。計画の立案のため、科学的な解を得る方法がないものだろうか。道路の建設など、いわば計画資源の投入によって、地域がどう変貌するのだろうか。変容のメカニズムをどうしたら解明できるのだろうか。いろいろ考えると、結局、地理学の課題に帰着することがわかりました。現在、地理学では、過去の地域の変化は研究していますが、将来の変化は予測していません。予測が困難なことは分かっていますが、それをしなければ計画は立てられません。予測の問題を地理学で取り扱えば、地理学のほうが、土木や建築のように作ることに囚われないだけに、都市計画の基本的方向付けを行うにより適しているといえます。

予測は科学・技術であり、実証しなければならず、巧みに言葉をあやつって言い逃れや言い負かしで済ませることはできません。一步一步、着実な学習と研究が求められます。当然、そのためには多大な努力が要求されます。何事でもそうですが、辛抱強く努力を続けることが大切です。聖書の「ローマ人への手紙」の第5章には、神とともにいる喜びを述べるとともに、こう書かれています。「患難をも喜ぶ。そは患難は忍耐を生じ、忍耐は練達を生じ、練達は希望を生ずと知ればなり」。科学・技術の学習は、一見面倒に見えますが、その進歩によって喜びが生まれ、長い目で見れば達成への近道のような努力を重ねたうえで、「地理は役に立つ」と自信をもっていうべきです。

東大名誉教授の西川治先生からお聞きしたのですが、内村鑑三の「地理学考」には「我に生を給せし地球、我の生命を与ふる地球、我の遺骨を託する地球、我之を研究せずして休まんや」と書いてあるそうです。役に立つ立たないに係わりなく、地理学の研究を行うことはよいことで、それを否定するつもりはありません。ただ、地理学が本来は役に立つのだということがあまり考えられていないので、進め方によって大いに社会の役に立つということを書いたのです。

実務の体験に基づいて、この8年間、役に立つ地理学を教えようと心掛けてきました。役に立つ地理学の基礎を身につけて世の役に立つ人材を、育てたいと願っていました。そのため、実験的な試みを行って、学生の皆さんに迷惑をかけた面がなかったとはいえないようです。先生がたにも、いいにくいことをいい、不愉快な思いをさせたことも否認しません。この機会に深くお詫びを申し上げます。

私は、青島東京都知事のように「なすべきことは総てなした」とはとてもいえません。ただ、なすべきことのために、ほとんど総ての時間を費やしたつもりです。にもかかわらず、具体的にどのこととはいいませんが、能力の低さゆえ、年長の教授としてなすべきことをなしえなかった責任は深く感じています。多少の功績としていわせて頂くと、多大な費用とスペースを必要とする地理情報システムの授業を、初歩的なレベルですが、金や場所を使わずに始めたことではないでしょうか。システム関係の就職面接で、まがりなりにも地理情報システムを学習しておいてよかったという声を聞いています。物や金がなくても、なんとかして必要なことはやるというのは、戦争中、ないない尽くしの中で、工夫をこらして対応してきた発想の延長によるのかも知れません。

願わくば、このような小さな芽が受け継がれ、周囲の理解が広がり、大きな実を結ぶ日が来るのを期待したいものです。

私自身は、退官して一人になるのを機会に、静かにこれからの時代の都市計画を研究したいと考えています。地球環境への負荷を少なくする都市計画。激しい経済変動に翻弄される地域とその住民に心の安らぎと生きる喜びを与える空間形成や施設配置。研究すべきテーマはいろいろあります。私自身、非力で大したことはできそうもありませんが、少しでも世の中に貢献できれば幸いと思っています。

皆様のご期待に応えられず迷惑を残して去って行く私のような者のため、お忙しい中、このような素晴らしい会を開いてくださった幹事役の皆様、心から御礼申し上げます。また、楽しい土曜日の夕方に、名教師でもない一教師のため、わざわざ集まってくれた学生の皆さんを見ると、師に対する礼はまだ失われずと、心が休まる思いがします。

未来は若い皆さん達の手の中にあります。皆さん達の力によって、愛と誇りの町づくりが進められ、そして美しい日本が甦えることを祈っています。ありがとうございました。

(1999年2月20日、地理学コース学生主催の送別パーティでのご挨拶より収録)